

よんまちかけ橋新聞

yonmachi kakehashi newspaper
とおり町交流館特集

祝

とおり町交流館
開設二十周年

#4



とおり町交流館玄関右の陶版画：岡本誠氏作（福山出身）

よんまち新店

よろしくお祈いします！
近年、開店されたお店を順々にご紹介します。

ランチボックス/デリスィーツ/ドリンクのテイクアウト、デリバリー



汐街 MARCHÉ ~CaféStand~



今年の春にオープンした汐街マルシェさんは、テイクアウトできるおしゃれなランチボックスと、種類豊富なフレッシュドリンク、スイーツのお店。「パリの街角にあるお店のイメージが、本通りの雰囲気とリンクした」と語るのは、オーナーの内田さん。絵本からでてきたような、可愛らしいお店の店内には、スタッフさんの手描きメニューや、ショーケースに並んだ色とりどりのお惣菜、スイーツ、さらに本や雑貨など、置いてあるもの数々に、何やらワクワクが止まらない。この新感覚のテイクアウトの形態は、内田さんが、これまでの飲食店の経営から、たどり着いた集大成でもあり、新たな挑戦でもある。「(お客様を)寄せるというよりも、変貌自在でどんな場所にも合わせていけるようなものにしたいなあと考えてます。」
おすすめは、汐街デリボックス650円(写真右)。ライス、目玉焼き、ピクルス、サラダに、メインディッシュが2品ついて、プレゼントの箱を開くような感覚で楽しめる。「お店で作ったものをテイクアウトでイベント出店したり、店内では、飲食にかかわらず、こだわった雑貨などを置いたり、お店自体が小さなマルシェのようなそんなお店にしたい。」常に進化し続けるお店に乞うご期待！



汐街 MARCHÉ (CaféStand)
〒720-0044 福山市笠岡町1-17 (本通商店街)
オーナー：内田 博宣
☎ 084-919-0507
10:30~22:30(16:00~17:30は中休み)
※火曜・最終週の水曜定休

鯛に魅せられた主人が行き着いた、本格和食と鯛料理、日本酒のお店



遊酒蔵(YUSHUZŌ)純



去年の4月から、ジョイふなまちにオープンした遊酒蔵 純さんの名物料理は、鯛を知り尽くした店主、前原さんが、これまでの修行で行き着いた、こだわりの鯛の姿焼き。瀬戸の2キロほどある鯛を、あえて1日寝かすことで、甘みが全面に引き出され、身がふっくらとした柔らかく甘い味に仕上がります。「鮮度のコリコリした鯛が好きの方もいますが、この姿焼きを食べたお客様は、どうしてこんなに甘いのか?とびっくりされます。鯛の新しい魅力に気づいたと言っていたこともありますよ。」
前原さんは、高校時代のすし丸のアルバイトがきっかけで、本格的に料理を学ぶため、魚好人 一休で10年修行し、その後、元化粧品店の場所を改装して、店を構えた。鯛をメインにした和食中心の料理で、季節ごとの旬の魚や素材を楽しめる。料理やお酒をお求め安く提供するため、なるべく広告は打たない。そのため口コミで徐々に広がり、常連さんも多い。(なんと、カルーセル麻紀さんも来店されたらしい)「コース料理も人気です。3,000円コースでは、刺し盛りから、鯛の姿焼き、野菜の唐揚げ、お寿司など7種類楽しめます。鯛の美味しさを、福山のみならず、いろんなところに発信するのが目標です。」



遊酒蔵 純
〒720-0043 福山市船町1-28(JOYふなまち)
店主：前原 純治
☎ 084-926-2009
17:00~23:00
※日曜定休(日曜のご予約ご相談承ります)

よんまち とは？

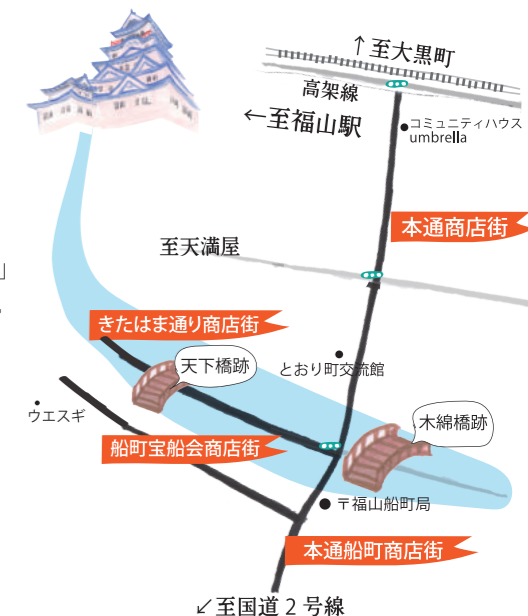
中心部東地区・四つの商店街地域が手を結んで「福山らしさ」を発信しようと2017年の6月に発足した、「福山駅東地区4商店街連携協議会」の通称を「よんまち」と名付けました。
4つの商店街とは「きたはま通り商店街」「船町宝船会商店街」「本通商店街」「本通船町商店街」で、この4つの商店街は、江戸時代に作られた2つの橋、「木綿橋」と「天下橋」という橋を共有しながら、城下町の中心地として、栄えてきました。このきずなを大事にして、「地域の懸け橋、未来への懸け橋」を合言葉に各々の個性を発信し、福山の中心部東地区の活性化に連携して取り組もうとしています。

今回のよんまち新聞にご協力いただいた方々

取材協力：福山本通商店街振興組合理事長 北村洋一さん 木村恭之さん(元理事長)
神野幸子さん(神野ガラス店) 柴田澄子さん(柴田楽器店) 門主美保さん
高田寛之さん(靴工房 白牡丹) 宮本良造さん(宮本カパン店)
チロリンさん(リンパのお店Chirorin) 遠藤展子さん(ピースファクトリー福山店)
内田 博宣さん(汐街 MARCHÉ (CaféStand)) 前原 純治さん(遊酒蔵 純)

写真撮影：安原幸雄(株)安原楽器 デザイン・イラスト 木村桃子

編集後記





福山本通商店街振興組合
理事長 北村洋一

20年前を思い起こしますと、現在の「とおり町交流館」の場所には、ばらの花壇があり、芝生があり、ログハウスがあり、ハミルトンガーデンと呼ばれていました。当時、商店街の人たちは、本通は商店街の東の端という感覚もなく、福山市の商店街の中心と認識していたと思います。イベントも盛大に行い、10月この時期は、輸入品フェア、年末クリスマスセール、終われば元旦朝市の準備と大忙しの時期だったように思い出されます。

現在イベントは、様変わりしたように感じますが、新たな人たちが、そこに生活する人たちに街の魅力を伝えて行こうと考える姿勢は変わっていないように感じています。また、その拠点となり続けている交流館は、存在そのものが、街の魅力だと考えていいのではないのでしょうか。先輩たちの英知と行動力から生まれた「とおり町交流館」、今後も商店街とともに重要な役目を果たしてくれると感じています。

2 とおり町交流館の誕生の背景

「商店街の衰退は地方の固有文化の喪失につながるのか」

平成に入って間もなく、米国との通商交渉過程で、大型店舗の出店を規制していた「大店法」が撤廃となり、全国の商店街がシャッター街へと衰退する危機が顕著となり、それはまた、地方や地域がもつ固有の文化が失われてゆくのではないかと、という社会問題をはらんで今日に至りました。福山においても、その後、多くの大きな商業施設の開店ラッシュとなり、その前段階では、本通の先輩有志が、駅前二丁目、ダイエーに対抗しようと建設した本通ショッピングセンター（改装後の名は、本通ビック・現在、交流館があるマンションの位置）も破綻をむかえました。強いていえば、温もりがありながらも奇合経営で、合理的経営の大型店に抗すべくありませんでした。そのような中、ちょうど、本通地域の東1kmに「ポートプラザ・イトーヨーカ堂・天満屋ハッピータウン連合体」そして、その後、福山駅西500mの位置に「福山そごう（その後、天満屋ロックス、現在はエフビコ・リム）」の出店計画等が発表された時代を迎えました。



活気に溢れる本通り商店街

本通商店街は、この商業地図の激変の中、壮大な「本通コミュニティマーケット構想」を発表。笠岡町本通側全街区の再開発構想を発表。この構想は駅前、郊外に対抗する商業核をねらった計画でしたが、今から考えれば、夢物語ということになるでしょう。しかし、歴史は面白いもので、現実には、大資本と同じ土俵の商業核を追及する街づくりではなく、コミュニティを核とした独自の道を求める街づくりが発想転換をする機会を与えられたと考えると、その結果、とおり町交流館を核とした街づくりに入り、現在の「福山らしさを発信する・とおり町ストリートガーデン計画」につながったと思っております。時代背景から、今日、中心部全体が、大型開発ではなく、コミュニティをコンセプトとした街づくりへとシフトしていることを見れば「諫鼓鶏」さんも領いているのではないかと、と内心思っております。



カナダ・ハミルトン市においての姉妹縁組仮調印式。福山本通 北村洋一さん（現理事長）と木村恭之さん（当時理事長）、インターナショナルビレッジ商店街の幹部

なつかしいな 昭和～平成はじめ本通のイベント風景



昔から、福山本通りは、イベント天国で、全国的にも有名でした。

元旦朝市は、全国表彰された名物イベントでした。

元旦朝市の獅子舞

元旦には樽酒のふるまい

夏風物詩 七夕祭り

夜店では、船で動物を作る芸人さん、口から火を吹く芸人さんなど大集合

夜店の風景

街路で全国初の綱引き大会、ストリート綱引き大会（会社・学校・地域対抗など）

ストリート結婚式では、牧師さんと呼んで。あの二人は元気かな。

ストリートジャズダンス大会

木下大サーカスさんがラクダで参加

アーケード新装記念、東京ディズニーランドご招待フェア

誕生のテーマは『Shake Hands』 「仲良く握手しましょう。 過去と未来、そして…」



とおり町交流館開設時の元理事長 木村恭之さん

とおり町交流館が本通商店街のシンボリックな施設として開設されて二十年が経過しました。開館のその日は十一月三日、文化の日。本年は、ちょうど人々の記憶の年です。

よんまちかけ橋新聞の取材を受けまして、まちなかの特に中心部東地区のコミュニティ核施設として、これからも、地域の人々や市民の方々により愛される成長をめざして、組合員をはじめとして多くのご関係の皆様へ感謝しながら、誕生当時のことなど、思い出話として振り返ってみることにしました。



本通は、商人の街として昭和の時代まで福山の商業をリードしてきた、というながしかの「誇り」をもった風土で、今でもその気風は受け継がれているように思われます。その象徴が、交流館のウインドウに鎮座している「諫鼓鶏（かんこけい）」の姿でしょう。これは中国の故事にちなんだ物語で、世の中が平穏な時は、鶏や太鼓は静かなままだが、世が乱れた時には、鶏がコケコッコと叫び、人々がこの太鼓を打ち鳴らして、余（時の皇帝）に知らせたよ、と皇帝自ら城外に設置したものだ、と言いつづかれています。

「諫鼓蒼生す（かんこ、こけむす）」とは、善政により太鼓を鳴らすことがない平穏で幸せな世の中が長く続くという意味合いでしょう。

そんな謂れのある「諫鼓鶏」を江戸時代より「とおり町・笠岡町左義長（とんど）」の上飾りとして担ぎ上げ、その気概は本通全体に今日まで受け継がれていると思われまます。また、お隣の船町は「宝船」の上飾りを誇りとして今も組合名にも冠されています。「よんまち」各々の町の町衆にこのような誇りの風土が受け継がれているということでしょう。

1 とおり町・本通のシンボルは「諫鼓鶏」

本通の守り神
交流館の玄関には
諫鼓鶏かんこけい



3 コミュニティが生まれる場所へ 交流館建設とハミルトンスクエア計画

振り返れば、大型店誘致と再開発に頼る時代からの脱却を模索する中、諫鼓鶏を叩き続ける気分でありましたが、福山に自前の商業文化は築けないものかを目標として苦悶するなか、シヨッピングセンターの買収が困難となり、その後、現在のマンションである「ダイアパレス・プラザ本通」の計画が進行していましたが、その間、本通では、福山市とカナダ・ハミルトン市との姉妹縁組25周年に合わせ、ハミルトン市のインターナショナルビレッジ商店街と姉妹縁組を締結し、マンション建設まで、空き地400坪にハミルトンガーデンをコミュニティ広場として実験的に仮設、その経験から、当地をコミュニティ施設と公園設計を一体化した「ハミルトンスクエア計画」と名付け、中心部東地域のコミュニティ核施設として、市民が集える独自の空間を創る方針といたしました。新たな時代を迎えるため、組合員皆さんの意見を集約することができ、組合執行部全員と支援を得て、開設までこぎつけたと理解しております。これが、「とおり町交流館」誕生の背景と言えます。



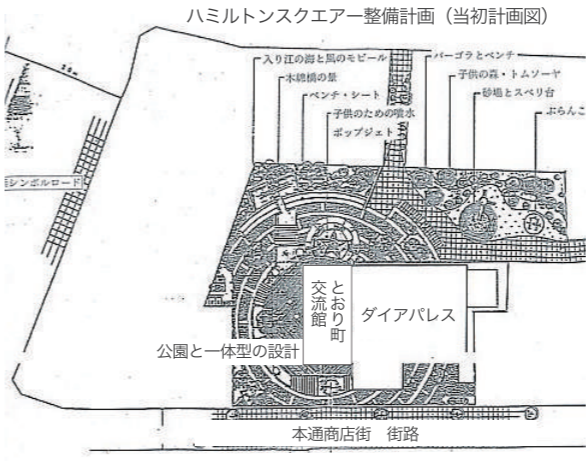
モローハミルトン市長と(故)小林会頭



ハミルトンガーデンでの催し風景

4 とおり町交流館の役割とイメージづくり

とおり町交流館は福山初の民間によるコミュニティホール施設の施設として、また、全国初のマンション分譲取得による施設でもありましたが、内装を姉妹縁組をしたカナダのイメージを取り入れ、温もりと親しみのある空間に、そしてマンションの1階にあることから、都市型文化を発信できるオシャレな雰囲気とテラス、公園との一体感をもたせる施設として、その間、市民の文化的趣味の集い等多くの利用者に愛されてまいりました。特に映像音響機器を充実したこと、コンサートやライブ等の発信基地としても好評です。

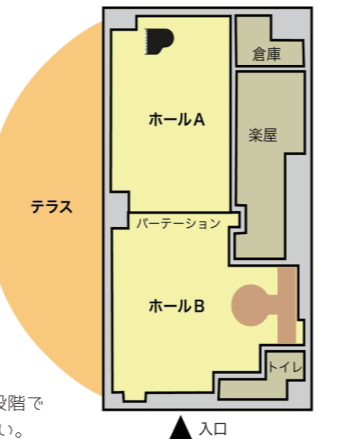


公園ととおり町交流館の設計者：コヴァ建築設計事務所の故小林珍樹所長

5 最後に、テーマの「Shake-Hands」について

とおり町交流館の開設には多くの皆さまのご協力の上、本通の皆さまには20年に亘る設備投資の返済が本年で終了するということです。長期間、ありがとうございました。さて、最初に表した「Shake-Hands」がありますが、交流館玄関右に大きな陶版画があり、中央に大きな握手がはめ込まれています。その下部には、福山のシンボルである薔薇の花たち、そして上部には、木綿橋を渡る左義長の絵があります。まちなかを彩るお祭りの絵で、過去からの福山2大祭りが握手した図柄です。(本誌表紙)

過去と未来、生活者と事業者、市民をはじめに世界中の人々が、コミュニティのテーマとして「Shake Hands (握手)」しよう、と表わされています。全ての皆さまが Shake Hands する場として、とおり町交流館の大人の1歩を踏み出しましょう。いつの日か、 Hug (ハグ) できたらもっといいかな。思い出すままに綴りましたが、私個人の思い出話としてお受け止めいただければ幸いです。最後にこの場をお借りして、当時一緒に推進いただいた高田専務理事(現、市商連理事長、市議)児玉一洋副理事長(現、副理事長北村洋一ハミルトン同行セクレタリー(現理事長)そして、組合員の皆さま方にお礼申し上げます。



ホール使用料			
多目的ホール	面積	収容人数	使用料(時間)
全室(ホールA+B)	100	50~60人	2,400円/h
ホールA	50	20~25人	1,200円/h
ホール	50	20~25人	1,200円/h

※ご利用申し込みは原則として使用日の3ヶ月前から予約受付。早い段階で印刷等で告知が必要なイベントのご利用については別途ご相談ください。
 ※ホールAとBは可動式パーティションで仕切るため音漏れします。
 音量が大きいご利用につきましては全室(ホールA+B)で申し込みください。
 全室(ホールA+B)は、音響システム、テーブル7枚、椅子55脚等すべての設備がお使いいただけます。

楽器・機材仕様/附属設備使用料(オプション)		
グランドピアノ	YAMAHA G2	1,000円
マイク&音響機器	ワイヤレス TOA2本 / SHURE SM58 4本	500円
プロジェクター&スクリーン	EPSON EMP-822	500円
音響オペレート+機材一式	16入力/4出力	20,000円

とおり町交流館 (とおりちょうこうりゅうかん)
 〒720-0044 広島県福山市笠岡町 1-13
 利用時間 9:00~21:00
 TEL.080-6326-4880 (10:00~19:00/火曜定休)

ご利用希望の方は、
 使用申込書が必要です。
 HP『とおり町交流館』
 から申し込みください。



開設レセプション風景



とおり町交流館 開設レセプション(20年前の本通の皆さん)



開設テープカット風景

また、ハミルトンスクエア計画に沿って、福山市による東地区の拠点地域の視点から、隣接する笠岡町公園と交流館を一体的な環境とするため、近隣の皆さまと一緒に築き上げてまいります。特筆すべきは、中央町内会前会長の西氏の長年に亘る献身的なお世話もあり、かつ地域住民の皆さま、子供たちの清掃、管理等、本通より深く感謝していることをお伝えしておきます。今後も地域住民のみならず、本通の皆さまと一緒に、市民が憩える交流館、広場、公園として役立つ施設空間を目指してゆければという思いでお手伝いできればと思っております。

本通にある2軒のカバン屋さんが、カーブランドセルを共同開発！近所で同業種の奇跡のコラボと、その夢を追います！

靴工房 白牡丹
高田寛之さん



宮本カバン店
宮本良造さん

Carp ランドセル 誕生!

共同開発
靴工房 白牡丹
宮本カバン店



「この店は僕で4代目。カバン屋でどうやって残っていくのか、ずっと考えてた。」
カーブランドセルが生まれるまでの経緯を語ってくれたのは、創業84年のカバン店を受け継ぐ「靴工房 白牡丹」の代表である、高田寛之さん。
大阪で靴などの販売経験を得て、家業を継いだ高田さんは、地元の実現に直面する。「考えて模索して。そして、修理でやっていけないかと思ったんです。」

「ひろくん、これ直せるかな？」
依頼主は、同業者であり、ご近所でもある『宮本カバン店』の宮本良造さん。ランドセルとポーターの専門店として、創業116年の老舗を支えている大ベテランだ。

修理は独学で、自分の持つカバンを分解し、金具の穴や縫製で開いた穴にミシンや手で縫って、新しい穴を開けないように組み立て直す作業を繰り返し練習しながら学んだ。そこからクリーニングや、カビを取り除いたり、革に色を入れ直したりの技術を磨いた。最初は自社で売っている商品のみ対応だったが、次第に、様々なお客さんから靴の修理をお願いされるようになった。そんなある日、ある人がランドセルの修理を頼みにやってくる。

9 修理からつながる二つのカバン店



「この店は僕で4代目。カバン屋でどうやって残っていくのか、ずっと考えてた。」
カーブランドセルが生まれるまでの経緯を語ってくれたのは、創業84年のカバン店を受け継ぐ「靴工房 白牡丹」の代表である、高田寛之さん。
大阪で靴などの販売経験を得て、家業を継いだ高田さんは、地元の実現に直面する。「考えて模索して。そして、修理でやっていけないかと思ったんです。」

「この店は僕で4代目。カバン屋でどうやって残っていくのか、ずっと考えてた。」
カーブランドセルが生まれるまでの経緯を語ってくれたのは、創業84年のカバン店を受け継ぐ「靴工房 白牡丹」の代表である、高田寛之さん。
大阪で靴などの販売経験を得て、家業を継いだ高田さんは、地元の実現に直面する。「考えて模索して。そして、修理でやっていけないかと思ったんです。」

夢を語り合う同志として

二人で考え、こだわりぬいた渾身のランドセルと新たな夢
球団に承認を得て、値段やデザインなどを二人で話し合い決めていった。「カーブ坊やがいたほうがいいのかなど色々デザインを考えたけど、6年間背負うから、最終的にはシンプルになりました。鉄も高級感のあるものを使って機能面もこだわってます。」
日本製で、6年間の耐久性・無料修理付き。価格も少しでも求めやすく最終的には4万円のラインに抑えた。色は7種類。カーブの赤と黒が一番人気だ。北海道や九州から注文もあり、4歳の子供に2年後に使うために購入するお客さんもいる。店頭販売は白牡丹、ネット販売では宮本カバン店で、相互で協力しながら限定100個を売り出している。
「一緒にやっているけど、宮本さんから教わるのがたくさんあります。自分で売るための努力とゆうか、一つのを売るために、本当に汗流さないといけないんだな。」
将来は、ランドセル館を作りたいと、新たな構想を二人で企画中だ。

ネット販売
ランドセルとポーターの宮本カバン店
〒720-0046 広島県福山市今町2-8
TEL.084-923-2790 10:00-19:00(火定休)
http://shop.bag-miyamoto.net



店頭販売
靴工房 白牡丹 (はくぼたん)
〒720-0046 広島県福山市今町4-22
TEL.084-983-3711 10:00-19:00(火定休)
http://haku-botan.jp



Youtubeでも大人気!



みんなに笑顔をおすすめ分け

8

時にはカーブ娘、また時には茶屋娘に変装しながら商店街のお店や通りを舞台上に踊って歌って、町に元気を届けているステキな3人娘がいます!その名も『麦畑トリオ』。結成のきっかけや思いについて、メンバーのお手紙からお届けします。

『はじめは、仲良しおかみさんの井戸端会議から。今から10年前、「私たちが何か世の中にお返ししたいね…」と誰からとなしに発せられた言葉から、施設に慰問に行こう、ということになり、何も芸らしきものを持ち合わせしていない私たちは色々な才能のある方達にお声がけして集まっていたら、この年の7月に初めて慰問に伺いました。お年寄りの笑顔が見られるのも、慰問をして良かった・・・と思える嬉しい瞬間です。最初の頃は月に一回と決めていたのですが、近年お声をかけていただくことも多く2回訪問することもあります。
慰問プログラムに何か新しいものを…と思っていた矢先にかねてから大ファンだった、竹島宏さんがテレビで恋町カウンターを歌いながら恋町ダンスを踊られているのを見て、私たちにもできるかも?と3人で相談しYouTubeという動画サイトで『Let's恋町ダンス 竹島宏と一緒に踊ろう』を見ながら夜な夜な練習に励みました。多くの皆さんが恋町ダンスをYouTubeにアップされているので私たちもアップしてみました。そして、私たちの恋町ダンスが少しでも皆さんの笑顔になるのなら、と恥ずかしながら本通りの、さかい茶舗の前で踊らせていただきました。』

今後も色々なバージョンが町で見れるかな?キュートな麦畑トリオ目が離せない!

Youtubeで麦畑トリオを見よう!



『恋町カウンター 麦畑トリオ』で検索!



恋町カウンターとは?

演歌歌手、ムード歌謡の歌手である竹島宏が、3月にリリースした最新シングルの『恋町カウンター』。オリコン週間演歌・歌謡ランキングにて第1位を獲得し、コミカルかつ個性的な振付「恋町ダンス」はYouTubeやTV番組で話題を呼んでいる。



歌って踊って 麦畑トリオが



神野幸子さん

門主美保さん

飛入り参加のさかい茶舗さん

柴田澄子さん

特にはカーブ娘のコスチュームで



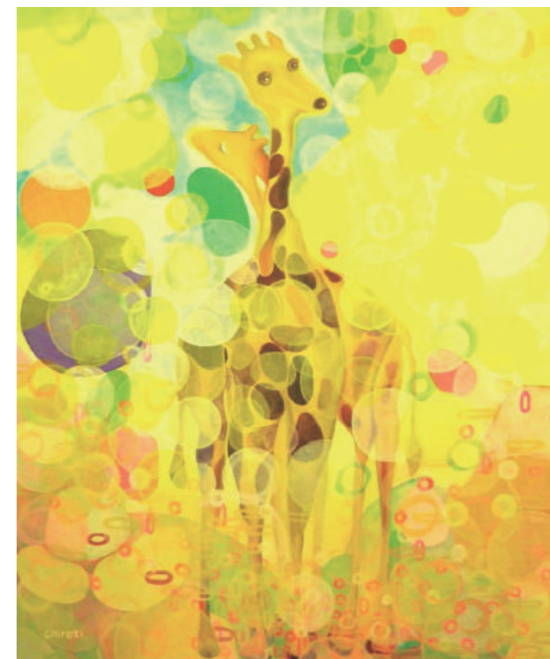


商店街の人たちに 会いに行く。

きたはま通り
ビーズファクトリー福山店
店長
遠藤展子さん

商店街の人たちに 会いに行く。

本通商店街
リンパのお店Chirorin
チロリンさん

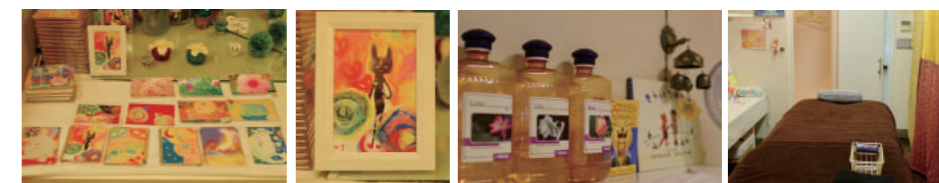


音楽や楽器と同じで、 描かないと落ち着かない。

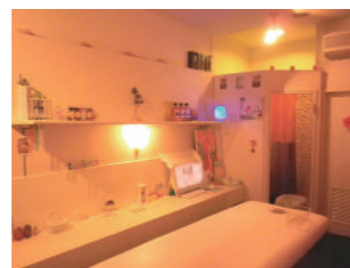
本通り商店街でリンパのお店を営むチロリンさんは、画家でもある。お店に入ると、まるでチロリンさんの絵の中に入り込んだような、柔らかな雰囲気が入った瞬間に包みこまれるような、チロリンさんの世界観を体現できるリラクゼーションの空間。店名は、ご自身のニックネームであるチロリン。学生時代に習った星野富弘の「鈴の鳴る道」で、下半身付随になった著者がリハビリをしていく中で、鈴をプレゼントされて、それを車椅子につけて外に出るといい音色が出て前向きになるといいう話から、自分が絵を描く時に励みになるようにと思い、鈴の音を連想させる名前で、活動するようになった。



子供の頃から絵を描くのが好きだったチロリンさん。ちょっと奥まった店内に一步入ると、そこはもう別世界。空間を柔らかく温かい世界観で包むチロリンさんの絵と、マッサージは、心と身体両方のリラクゼーションの効果もありそう。



「自然に心に浮かんだものを描いたりしています。音楽を聴いたり、楽器を演奏したりするのは同じで、していると落ち着く、なくてはならないもの。」
7年前、マッサージ業の経験を生かし、絵画教室で通い慣れたこの通りにリンパのお店を構えた。駅に近く、車も入らない落ち着いた雰囲気この通りで、ひっそりと隠れた存在として、仕事帰りの方や、県外からもお客さんが来る。小柄に見えるチロリンさんだが、力強い腕前を求めて来る常連さんも多い。優しい色調の絵に囲まれた空間に癒されて、寝てしまう方もいるのだとか。「絵一本では、なかなか難しいのでお店をしながら描いています。50代位のお客様が多いので、深みのあるお話にすごく得るものがあります。」
画家とリンパのお店、異なる分野のようは一見思うが、この両方が一つになって柔らかいリラクゼーションの世界ができていくように感じる。
チロリンさんの夢は、画廊喫茶。絵で生活できるようになればと思います。
「自分の絵をもっと深めていきたい。それに尽きると思います。」



リンパのお店 Chirorinチロリン
広島県福山市今町4-25
TEL.090-7777-1569
AM11:00~PM20:00
(最終受付19:00)
不定休

作ることが好きで いつの間にか25年

質が高く、繊細なビーズで、世界的にも有名な株式会社MYUKIさんが運営するビーズファクトリー。きたはま通りに面したこの場所で、ビーズ専門店としてお店を構えて30年。店長の遠藤さんは、今年で25年目のこの道一筋のベテラン。「正直、こんなに長くいるとは、入ったときは想像もしていなくて。ビーズを触ったこともなかったんですよ。」世界のMYUKIと言われる大きな企業だが、店内には、人に地元に着したような安心感がある。ポップやキットに同封する作り方の手順や説明書などに、手書きの温かさを感じる。店長の遠藤さんやスタッフさんが書いているようだ。遠藤さんのお仕事は、多岐に渡る。ビーズの販売から、店舗オリジナルのデザインを考える企画、制作、ビーズの教室も行い、参加者に作り方を教えるりもしている。「商品だけでなく、インターネットでも買えますが、お客様の分からないに答えるキャッチ



25年間、この店に立ち続けてきた店長の遠藤さん。店内ではビーズ教室も行っている。教室は木曜日。1回2時間で500円(6名様まで)教室は店内の壁面にあるキットから選んでいただく。親子の日は第3土曜日、子供さんは無料でプレスレットを作れる。



ポールは実店舗でしかできないので対面でしっかり作り方をお伝えしたり、どうゆうパーツがいいのかなどご相談にものったりしています。」
客層は老若男女。初心者の方から、常連のお客様が県外からもやってくる。
「私が働き始めた頃から来てくださっている方もいます。プライベートなお話しながらビーズでコミュニケーションも広がります。作ることが好きで、仕事が嫌だと思っただけでなくて、あつという間に25年経ちました。」
まるでビーズでアクセサリをじっくり作っているような落ち着きと、穏やかな印象を感じさせる遠藤さん。

ビーズの聖地として、海外のお客さんに応対することも多い。日本に来るなら、福山のビーズファクトリーというほどだ。
「ビーズの世界は、一つの小さなビーズに糸を通しながら、色も形も無限大で夢があります。地元これだけ世界で知られているものがあるので、もっと興味を持ってもらえたり、地元の人に自慢してもらおうように頑張りたいと思っています。」



ビーズファクトリー福山店
広島県福山市元町15-13
アルファビル(きたはま通り)
TEL.084-931-7272
AM10:00~PM19:00
定休日 水曜・日曜(夏季・年末年始)
※祝日・土曜は営業

水野家福山城下 明細地図

三吉村

田畑



水野家
 用屋敷
 寺社地
 家中屋敷
 町屋敷
 田畑百住地
 木子藪
 芝地(堤)
 番所
 門圍

